



小倉ロータリークラブ 週報

世界へのプレゼントになろう

R I テーマ：“世界へのプレゼントになろう”

R I 会長：K.R.”ラビ”ラビンドラン氏
(所属：COLOMBO RC)地区テーマ：“考え方ロータリーの多様性と
クラブの主体性を”

地区ガバナー：本田 正寛 氏 (所属：福岡 RC)

クラブテーマ：“与えよう、ロータリアンとしての
ステイタスを自覚して”

会長 鮎見 進一／幹事 森 浩明



表紙写真説明(テーマ/魚釣り)

先日、秋晴れの気持ち良い陽気の日に長男とその友人親子と共に魚釣りに出かけました。長男が釣り上げた写真のコチは体長約60センチ。グロテスクな風貌ですが巷では高級食材として扱われているそうです。ちなみに写真の顔の部分が切れているのはコチを強調する為です。【撮影：長森 2015年10月 北九州某所にて】

例会場 リーガロイヤルホテル小倉 TEL 093 (531) 1121

《報告に関して、敬称略》

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 e-MAIL : krpc@rid27.jp

事務局 北九州市小倉北区浅野2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉 2F TEL (531) 1727 FAX (522) 4333

会報・雑誌 委員会 委員長：長森 健 副委員長：外堀 隆博

委 員：難波 幸雄・三角 勝信・玉井 行人・田中 信也・佐久間 庸和・中島 裕幸



四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



本日の例会 第3239回

- ・国歌斉唱
- ・ロータリーソング “奉仕の理想”
- ・会員卓話 草刈 昌志 氏
NTT西日本㈱ 北九州支店長

第3238回 例会 記録

10月23日（金）普通例会

- ・ロータリーソング “四つのテスト”
- ・会員卓話 藤田 昌秀 氏
住友生命保険(相) 北九州支社長

会長の時間

鮎見 進一 会長

今月は米山月間ですので、本日は米山梅吉氏についてお話しします

米山氏は、慶応4年2月4日(1868年2月26日)に江戸(東京)の和田家に生まれました。5歳の時に父親が他界したため、母親の郷里である静岡県三島に移住

します。14歳で旧制沼津中学に入学するも2年で退学。上京して、銀座の江南学校に入学しますが、19歳で東京英和学校(青山学院の前身)に転入し、米人講師のもとで英語を学んでいたそうです。翌年に米山家に養子となり、渡米。8年間の在米中、オハイオ州・ウェスレヤン大学やニューヨーク州・シラキュース大学などで法学を学びました。日本に帰国後に勝海舟に師事し、博文館より「提督彼理(ペルリ)」を出版しています。

1897年、井上馨の紹介で三井銀行に入社し、三井銀行深川・横浜・大阪各支店長などを経て、1909年、常務取締役に就任し実権を掌握しました。1920年に日本初のロータリークラブである“東京RC”を設立し、初代会長に就任。内外編物(現・ナイガイ)設立に深く関わったそうです。

1924年に三井信託株式会社を創立し、取締役社長に就任。1937年に財団法人緑岡小学校(現、青山学院初等



部)を創立し校長に就任します。1938年には、貴族院議員に勅選されています。晩年も、財団法人三井報恩会理事長、三井信託株式会社代表取締役会長、第15回赤十字国際会議日本赤十字代表委員などを歴任され、1942年に勲四等瑞宝章を受章されています。昭和21(1946)年4月28日に逝去され、享年78歳でした。

「ロータリー米山奨学会」の名前は、もちろん日本のRCの創始者である米山梅吉氏に由来するのですが、第2次世界対戦中に国際RCから脱退した日本のRCは、1949年に復帰しました。米山梅吉氏はそれを待たずに逝去されています。

『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』によると、米山奨学会制度は、米山梅吉が、生前、東南アジアに深い関心を持っていたことから、ロータリー財団の奨学会制度に模して、毎年2名の奨学生をアジア諸国から招致しようとする、東京RCのプログラムとして始まった計画だったそうです。1952年12月3日に成案が可決され、翌年の2月25日に募金計画が決定し、目標を260万円として会員及び会員関係事業所に募金を募ったということです。面白いことに、その寄付第一号は、当時東京RCの例会の“常連”で、バージニア州のロータリアン、ウイリー・ネルソン(シンガーソングライターではありません)が3月15日の例会で寄付してくれたものだそうで、国際奨学会事業の発足に誠に相応しい情景であったということです。

今後、小倉RCから素晴らしいプログラムが生まれることを祈念して、私の話を終わります。

幹事報告

森 幹事

- ・昼間の例会に出席いただくのも重要ですが、どうしても欠席の場合は、親睦行事に出ていただくと出席補填になります。他クラブにメークアップに行くのも一つの手段ですが、クラブの様々な行事にご参加いただければと思います。
- ・本日の料理は、リーガロイヤルホテルの中国料理店「龍鳳」の炒飯とスープです。今回限りの特別メニューです。
- ・来週は休会ですので例会はありません。

出席報告

合馬 委員長

2015年7月1日：63名でスタート

| | 会員数 | 出席者数 | メークアップ [°] | 出席率 |
|-------|-----|------|---------------------|---------------|
| 当日の出席 | 67名 | 43名 | — | 74.14% |
| 先週の出席 | 67名 | 13名 | 44名 | 91.53% 修正後 |

- ◆ゲスト 0名
◆ビジター 0名

委員会報告

国際奉仕委員会

増田 米山記念奨学会委員長

米山記念奨学会から募金のお願いです。今月は米山月間になります。昨今、我々のクラブからは年間一人当たり五千円を寄付していますが、米山奨学会の財政が厳しいということで、例年同様、例会にて募金箱を廻させて頂きます。是非ご協力をお願いいたします。

ニコニコ献金

東 SAA

35,040円 : 累計金額 201,040円

原田 光久 君

- ① 有岡さん、洗心会では誠にお世話様でした。有難うございました。
- ② 外堀さん、タクシー、券で乗せて頂きました。有難うございました。
- ③ 小倉さん、下松のご出身だとお聞きし、それは知らなかつたな……と思いました。

辰巳 和正 君

10月18日の博多ヨットクラブの相の島時計回り30マイルレースは、4時間49分22秒で断トツのファーストホームでした。

中村 文彦 君

先日の清掃登山では、大変お世話になりました。お蔭様で初登頂できました。

松本 篤 君

- ① 古賀(敬)会員が提供くださった濃い～い焼酎を、チビチビ美味しく頂いています。有難うございます。
- ② 本日、欠席でスミマセン。

辰巳 和正 君、加藤 敏雄 君、前川 義広 君、赤坂 英典 君

井筒屋の屋上バラ園でバラが花盛りとニュース流していただき、上田局長有難うございます。

東 隆一 君

- ① 先日の洗心会、日程の勘違いでドタキャンし、申し訳ありません。ペコペコです。
- ② 森幹事、松永副幹事、ダイントゥア参加できず、ごめんなさい。

高橋 智彦 君

2週間前の話になりますが、100キロウォーク完歩しました。森幹事、ご声援ありがとうございました。

親睦活動委員会

洗心会の残りをニコニコします。



会員卓話

**住友生命保険(相) 北九州支社長
藤田 昌秀 氏**

『豊かな社会づくり～住友生命の社会貢献活動～』



本日は、第1部として、住友生命が行っております様々な社会貢献活動を紹介させていただき、第2部として、4年前に行きましたネパールでのバイクツーリングの話をさせて頂きます。

当社は、「子育て支援」「次世代応援」「健康増進」の3つの視点で社会貢献活動に取り組んでおります。

その中で、本日は「子育て支援」で実施している4つのイベントの話をさせて頂きます。

まず始めに紹介しますのは、「絵画コンクール」です。主に小学生以下の子供達を対象に、その年のテーマに沿った絵を描いてもらいます。応募された作品のうち優秀なものはフランスのルーブル美術館に展示され、あわせて当社から8万円分の旅行券を差し上げています。また、絵の枚数に応じての募金活動も行っており、昨年までの39年間で累計約7,700万円が世界の子供達の為に役立てられています。

2つ目に、「弁当の日応援プロジェクト」をご紹介致します。これは子供達が自分で弁当を作り学校に持参するという活動の応援で、親向けには講演会やシンポジウムの開催を、同時に子ども向けには料理教室を行っています。

3つ目に、「スマセイおはなし広場キャラバン」をご紹介致します。これは、読書を通した子供の健全育成を目的として、各地を訪問して子供達におはなしや本の楽しさを伝えるという活動です。

4つ目に、「スマセイアフタースクールプロジェクト」をご紹介致します。これは子供達の健やかな成長と、子育て世代が安心して働くことが出来る環境整備の為の社会貢献活動で、企業として初となる学童保育支援の全国展開事業です。北九州管内でも昨年・今年と2年連続で開催されています。

今「和食作り」が注目されていますが、その背景として、生きていく力の根源として「食育」が重要視されるようになったことが挙げられます。当社はこの「食育」と合わせて「家族愛」「子どもに伝えたい想い」をテーマに、今般、西日本新聞社が主催で製作された映画「はなちゃんのみそ汁」のスペシャルサポーターとして、特別協賛を行っています。

この話は、福岡県宗像市在住の、西日本新聞社の社員の方を主人公にした実話で、元は同じタイトルのエッセイとして出版されたものです。その著作はベストセラーになり、テレビドラマ化、さらには教科書への

採用など、非常に社会的に反響の大きかった作品です。ダイジェスト版を映写致しますので、スクリーンをご覧下さい。がんとの闘いや子どもに何を残せるかという、重いテーマを扱いながらも非常に前向きな映画です。今年の12月19日から全国に先駆けて福岡県内で公開されますので、是非一度ご覧ください。

それでは続きまして、第2部、ネパールでのバイクツーリングの話をさせて頂きます。

スクリーンに写真を映しますので、それをご覧になりながらご清聴ください。平成23年10月に勤続25年の休暇でネパールバイクツーリングに参加しました。6名のソロライダーが成田空港に集まり、そこから旅がスタートしました。飛行機でカトマンズまで飛び、現地のインド製のバイクでネパールのヒマラヤ山脈を見ながら1週間走り続けました。ヒマラヤ山脈は全長2400kmに及び、7~8000m級の山々が連なっています。行く先々で、夕日や朝日に感動致しました。



ホテル屋上にて、夕日に染まるヒマラヤを全員で観賞



カトマンズ市内に入る坂道での渋滞。
前方バスの屋上にヤギまで乗っています。

【次回例会予告】

11月13日(金)普通例会

- ・ロータリーソング “我らの生業”
- ・卓話 田中 雄章 氏
北九州市総務企画局
地方創生推進室長

席表 (11月～2月)

鰐見 伊与田 森 松永

| | |
|---|---------|
| A | 村上 充生 ◎ |
| | 小倉 良夫 |
| | 牧田 謙之助 |
| | 福本 智之 |
| | 佐久間 進 |
| | 藤田 昌秀 |
| | 荒木 英生 ◎ |
| | 宇城 照耀 |
| | 八尋 重治 |
| | 佐久間 庸和 |
| | |

| | |
|---|---------|
| B | 高須 芳史 |
| | 板井 清記 |
| | 玉井 行人 ◎ |
| | 本村 道生 |
| | 中島 裕幸 |
| | 濱田 源一郎 |
| | 合馬 誠一 |
| | 難波 幸雄 |
| | 河野 耕太郎 |
| | 塩塚 健二 ◎ |
| | 末廣 石光 |

| | |
|---|---------|
| C | 杣 巍 |
| | 川邊 貴俊 |
| | 大迫 益男 |
| | 赤坂 英典 ◎ |
| | 有岡 正治 |
| | 東 隆一 |
| | 山中 孝昭 |
| | 中村 文彦 |
| | 小島 庸匡 |
| | 山本 雄大 ◎ |
| | 林 美智夫 |

| | |
|---|---------|
| D | 外堀 隆博 |
| | 上田 早苗 |
| | 古賀 徹志 |
| | 三角 勝信 |
| | 小林 慶治 ◎ |
| | 天ヶ瀬 洋正 |
| | 加藤 守夫 |
| | 辰巳 和正 |
| | 二村 吉則 ◎ |
| | 横山 定 |
| | 菅原 志典 |
| | |

| | |
|---|---------|
| E | 岩辺 武彦 |
| | 草刈 昌志 |
| | 前川 義広 ◎ |
| | 原田 鉄司 |
| | 高橋 智彦 |
| | 長森 健 |
| | 坪根 悟郎 |
| | 角南 雅徳 ◎ |
| | 西村 和芳 |
| | 川本 惣一 |
| | |

| | |
|---|----------------|
| F | 原田 光久 |
| | 尾畠 裕 |
| | 田中 亮一郎 |
| | 加藤 敏雄 |
| | 田中 信也 ◎ |
| | 増田 雄一 |
| | ジットウ イリヤ, ウィサヌ |
| | 木曾 長 |
| | 松本 篤 |
| | 古賀 敬三 ◎ |
| | 秋本 淳二 |
| | |

◎…テーブルリーダー

テーブル会合には、会長・幹事・副会長・副幹事へもご連絡ください。

故 高山 定基 会員を偲んで



たかやま さだもと
高山 定基 氏

八坂神社 前宮司

逝去日 H27年9月17日

享年 82才

ロータリー歴 43年

【ロータリー歴】

S47年2月4日 入会

H15年7月 会長

高山年度最初の「会長の時間」

平成15年7月11日

本日、月初、年度始めの小倉RCに、新会長として、クラブ伝統の鐘を鳴らさせて頂き感無量です。私は神社に育った人間で、行事の始まりは太鼓を打って行うのが慣例であります。お聞きのように元気よく大きく鳴らさせて頂きました。サイレン、鐘、ベルなど、時を報ずるものは色々ありますが、耳の不自由な方でも聞こえるのは太鼓のみであります。

7月1日に太鼓下ろしをして小倉祇園の始まりを告げます。太鼓には表面と裏面がありまして、表面をバチで打って裏面が鳴ります。小倉祇園は別称、太鼓の祇園と呼ばれ、表面と裏面の両方から打つ方式で全国唯一の打法です。太鼓は舞台の上で打つ事が殆どであり、小倉の太鼓のように打ち手が歩きながら打つのは珍しい事です。

RI会長ジョナサンB.マジアベ氏の方針と第2700地区佃亮二ガバナーの方針が掲げられていますが、要するに会員増強と出席強化、献金でのロータリー基盤強化の実行であります。以上を受けて奉仕の理想を追求するものであります、8年前紫川のノリ摘み神事により全国初の環境問題提起をしました。周囲の環境と体内の食の問題にまで輪を広げたいと存じます。農政の減反、養殖現場における薬品添加、食糧輸送における防腐剤の混入、又食糧自給率が27%を下回るなど国民の生命に危険を生ずる時代となりました。今年度の主なテーマとして取り扱いたいと思います。会長が表を打ち、会員の皆様が裏を打ち、素晴らしい音が出るようご協力御願いします。

高山会員の思い出

原田 光久 会員

高山さんは小倉RCの最古参会員、入会は1972年。本村会員、佐久間(進)会員と続き私が77年で、色々とご縁がありました。八坂神社のお祭りのご進行では宮司さんに次いで乗せて戴いた記憶があります。福岡の博多座の西隣のビルの上層にあった日本料理の全国的なお店・・・その後マスコミで厳しく叩かれたりしましたが・・・そんなことが起る前に地区の財団の集まりで度々ご一緒し、料理、酒に関する蘊蓄を傾けてのご解説を受けました。私の次男の結婚は高山さんのご次男が司祭して下さいましたが、孫がもう小学校一年になります。高山さんはとてもIdea豊富なそして何より大変前向きな方でした。クラブ会長をされた時もグルメである特質は常に垣間見えたと思いますが前向きでした。その後ずっと、近年のご闘病に至っても、基本的には前向きである…ということはしっかり貫かれたと思います。

村上 充生 会員

高山さんと言えば、声が大きく、各分野に造詣が深く、特に「酒・食」の達人でした。RCの例会時にも、「今朝、下関の唐戸市場へ行ったら、いい魚があったのでトロ箱で買ってきた。今晚はこれで一杯やる、うまいぞ~」「今、旬の魚は△△、しかも○○産が絶品」とよく教えてくれました。1997(平成9)年1月の新年初例会は、八坂神社の広間で「すっぽん鍋」を囲みました。食材は勿論、七輪、炭、鍋を高山さんが準備され、会員の皆さんを喜ばせました。お蔭で、お酒がすすみ、酩酊した会員は多数、鍋・酒奉行の高山さんは、満足した顔をしていました。

一度、鍛冶町の飲食ビル地下の台湾料理の店

宇城 照燿 会員

で会いました。女将さんが、高山さんと私に「今日は神様と仏様が一緒になって、大変いい日」と笑顔で言いました。女将さんは高山さんの事を「ペケペケちゃん」と呼んでいました。どうやらお酒を飲みすぎるので「×=ペケ」今風にいうと「駄目よ、ダメダメ」ということだったのでしょうか。

個性派の高山会員さんがいなくなり、淋しくなりました。

菅原 志典 会員

2001年の秋だったと思うが、当時副会長であった村上順荘氏から「来年の副幹事をお願いしたい」と打診があった。返事を保留にしていたところ、梶山稔氏(九州歯科大)から「私が会長の時は貴殿に幹事を頼む」と言われた。梶山氏は私の推薦人であるだけに断る訳にもいかず、「私で良ければ鋭意務めましょう」と返事をした。2002年7月から会長 村上順荘、副会長 梶山稔、幹事 麻上俊泰、副幹事 菅原志典でスタートしたが、その後梶山氏が脳梗塞で倒れ、入院されたので後任をどなたにするか心配をしていた。

時の会長 村上順荘氏から「次年度は貴殿が幹事であるから、貴殿がやり易い人物を選びなさい。人選は貴殿に任せます。」と指示があった。さあ大変、2~3の会員諸氏に会長を打診したが全部断られたので、RCの長老である高山定基氏にお会いして、今までの経緯を説明すると共に、相談がてらお願ひをしてみた。

流石は肝っ玉が据わった大人であるだけに「君の話は良く判った。自分はRCの事は良く知らないから、運営は君に任せたいので、それで良ければ私がやりましょう」と即答された。幹事が会長を決める事は前代未聞で聞いた事がないが、私の心中ではホッとしていた。2003年7月から高山定基会長、菅原志典幹事のコンビでスタートした。

一番印象に残っているのは、会長の時間でのミニ卓話を於いて毎回食材について話された事である。高山氏の食道楽は有名な話であるが、その講釈が始まると延々と続く達人であった。早朝に下関の魚市場まで買い出しに行き、ご自分で調理をされる由、”すごい”と言う印象が残っている。

任期が終わって、会長の時間の食に関するミニ卓話を1冊に纏めましょうか、と提案したところ「止めとけ」の一言で実現出来なかった事は残念であった。私の父が神主であつただけに、何かウマが合うと言うか兄貴の様な大先輩であった。

最後に「安らかにお眠り下さい」と申し上げ、在りし日の想い出話であった。

高山会員とのRCでの思い出は色々ありますが、その中でも思い出深いのは、紫川の「海苔摘み神事」の再興に、熱心に取り組んでおられたことです。昔は良質の海苔が取れ、八坂神社に奉納されていたそうです。戦後、紫川の汚れで採れなくなっていましたが、再開発により川も美しくなり再び海苔が育って来たということで、今の「太陽の橋」付近で始めました。門司の「布刈神事」に習い、参加者は八坂神社に集まり、衣装は「狩衣」と「鳥帽子」をかぶり「草鞋」を履き、人の丈よりも高い大きな「松明」を二本持つての出で立ちでした。冬の寒い時期で潮の満ち干の加減もあって、夜の遅い時間がほとんどだったように思います。夜中に異様な出で立ちで歩いている一団を見て、出会った人達は何事かと眺めていました。何分にも事が「神事」だけに、厚い防寒着を着る訳にもいかず大変寒かったです。宮司自ら冷たい川に入り海苔を刈り取っていた姿を思い出します。当時、新聞にも写真入りで大きく取り上げられました。採った海苔は味噌汁に入れて食べたことを思い出します。苦労したことでも今になってみれば懐かしい思い出です。

又、食についても大変詳しく、特に食材にはうるさく、話し出すと止まることを知りませんでした。これは家業が神社なので「神饌物」について良く考察をしていたからだと思います。会長卓話でもよく話されていました。考えてみれば、神社の宮司だけに、食べ物は神に捧げる物であり、あまり調理せず野菜も魚も旬の物にこだわり、何処で誰が作った野菜か、誰の漁船で取った魚かまでこだわって見極めることが大事だとよく言っていました。特に、蛸の茹で方は、茹ですぎては絶対にいけない、かといって生に近くてもいけない、茹でる時の蛸の色合いを見てサッと湯から上げる、このタイミングが難しいと良く聞かされました。時には朝早く唐戸市場で買った蛸だと言って家に持つて来てもらいました。さすが、大変美味しかったです。食することは命をいただくということ、ここまでこだわる理由にはその命に感謝し、一番おいしい状態でいただくことがその命を全うさせることだと、神職にある身として常に考えられていましたのだと思います。

今となってみれば、全てが良き懐かしい思い出になりました。ご冥福をお祈りいたします。

